

国際理解 外交官に学ぶ

G7事務局の伏木さん 仙台高で講演



伏木さん（手前）と意見交換する生徒ら

国際情勢や海外文化への理解を深め、将来の進路や職業選択の参考にしてもらおうと、仙台市青葉区の仙台高（生徒824人）は15日、外交官による「国際理解講演会」を同校で開いた。フランスやアルジェリアの日本大使館で勤務した外務省G7広島サミット事務局課長補佐の伏木光英さん（45）が講演。伏木さんは「外交はテロや紛争の予防、自国の経済活動支援などが大きな目的だが、自分にとっては多くの人と出会って見聞を広め、刺激を得られる」と、外交官の仕事の面白さを語った。

自国の音楽や伝統芸能を紹介すると相手は興味を持ち、交流が深まると指摘。

仕事、交流法紹介「相手思う気持ち大事」

「相手の国の文化の話題で盛り上がることも多い。本をたくさん読んで幅広い知識を身に付けてほしい」と訴えた。

「外交は相手を思う気持ちが大切」として、東日本大震災で宮城県のカキ養殖が打撃を受けた際、フランスから支援が寄せられたことを紹介。「約50年前にフランスのカキが病気で全滅しかかったとき、石巻市から種カキを送った。震災での支援はその時の恩返し。『情けは人のためならず』だ」と強調した。

講演後、3年生26人が伏木さんとの座談会に臨み、「外国人とコミュニケーションを取る時に大切なことは何か」「教育で日本と海外の違いを感じたことは」などと質問した。丹野凧河さん（18）は「外交官は難しい話ばかりすると思っていたが、イメージが変わった。さまざまな文化の国があると分かり、刺激を受けた」と話した。